

# 里山林の植物多様性を持続可能にする方法

【研究成果】平成21年3月の『生物多様性ひょうご戦略』の策定により、多様性保全を目的とした里山林整備への期待は、一層高まっています。当センターでは、コナラなどの落葉広葉樹林を目標とした里山林整備（『兵庫方式』と呼んでいます）が行われた場所で、その後のモニタリング調査を実施し、①これらの整備が植物種の多様性を高める効果があること、②種数の増加が横ばいになる整備後5年目頃を目安に選択的下草刈りを行うことにより、再び種の多様性が増加することを明らかにしました。

## 里山林整備（兵庫方式）前後の状況

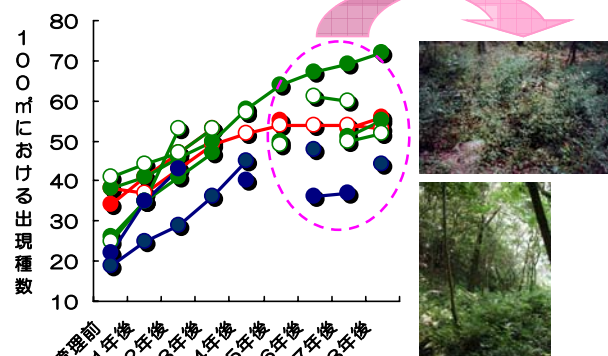


篠山市今田町  
アカマツ-モチツツシ群集

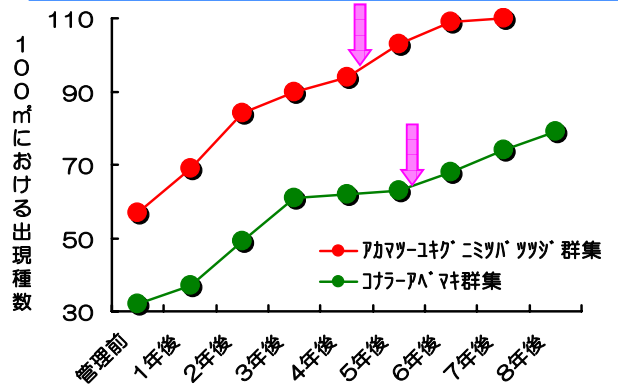
群集(群落)名	調査区No.	種数									
		管理前	1年後	2年後	3年後	4年後	5年後	6年後	7年後	8年後	9年後
アカマツ-モチツツシ群集	1	20	18	19	21	20	20	19	19	20	0
	2	19	21	25	29	28	28	22	23	23	4
	7	34	41	47	53	55	55	53	56	56	22
	10	20	22	32	40	46	46	49	53	53	33
アカマツ-ユキガ'ニミツバ'ツツシ群集	16	57	69	84	90	94	103	109	110	-	54
	19	38	37	43	49	52	54	54	54	63	25
	3	41	40	45	46	48	48	47	45	-	4
	4	47	45	56	50	59	54	51	57	60	53
コナラ-アハ'マキ群集	5	38	41	46	50	58	64	67	69	72	73
	6	39	45	60	63	69	79	82	82	80	41
	8	26	35	41	47	50	50	51	60	-	34
	11	32	37	49	61	62	63	69	74	79	42
	12	30	36	49	56	53	53	68	68	65	66
コナラ-オケチョウジ'ギ'カラ群集	15	25	35	53	57	57	61	60	-	-	35
	18	35	38	44	44	47	47	31	41	-	6
	20	41	44	47	53	49	49	47	52	-	11
ミス'ナラ-クリ群集	17	54	56	60	63	63	65	69	-	-	12
	9	22	35	43	40	40	36	27	-	-	5
ウハ'メダ'シ-コシガ'群集	13	19	25	29	36	45	48	48	44	46	19
	14	12	15	16	17	16	16	17	17	5	

『兵庫方式』による里山林整備は、里山林を本来の生育場所とする植物の増加につながり、種の多様性を高める効果があることを明らかにしました。

## 整備後の維持管理時期の把握



そこでこの頭打ちの時期を目安に、再度、選択的下草刈りを行うことで、種多様性が高まることを明らかにしました。



モニタリング調査の結果、種多様性の頭打ちは、里山林整備後5年を経過した頃からみられました。

## 森林ボランティアによる里山林整備の展開



シンポジウムやボランティア講座を通じて、成果の普及に努めており、森林ボランティアによる里山林整備の展開へとつながっています。

【今後の展開】里山林整備を開始してから15年近くが経過する中で、当センターでは、将来にわたって持続可能な里山林整備手法の確立を目指しています。